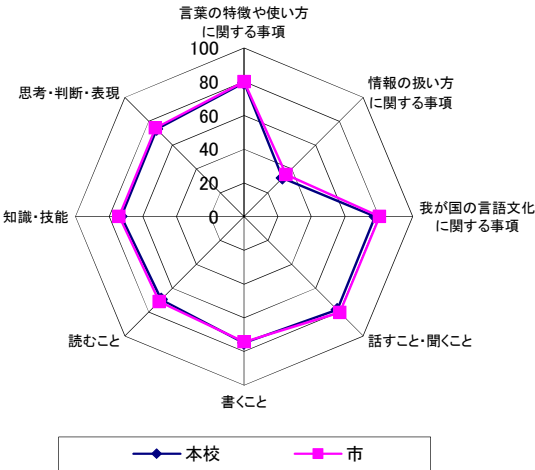


宇都宮市立清原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                 | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 79.4 | 80.0 | 76.5 |
|     | 情報の扱い方に関する事項    | 32.4 | 35.2 | 29.3 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項  | 77.8 | 80.4 | 63.1 |
|     | 話すこと・聞くこと       | 78.2 | 80.4 | 77.7 |
|     | 書くこと            | 74.9 | 74.3 | 62.9 |
|     | 読むこと            | 69.5 | 71.2 | 65.8 |
| 観点別 | 知識・技能           | 72.9 | 74.1 | 68.4 |
|     | 思考・判断・表現        | 73.4 | 74.3 | 67.0 |
|     |                 |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

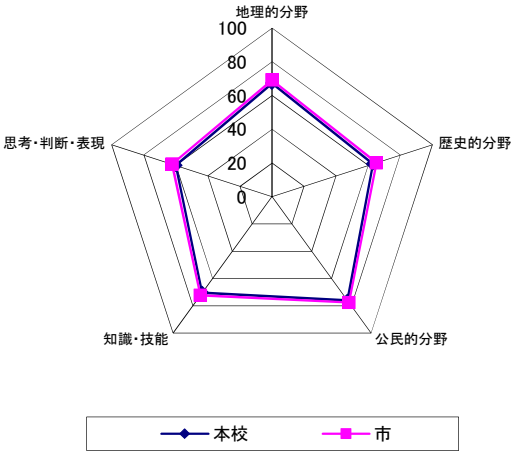
| 領域              | 本年度の状況                                                                                                                                                                        | 今後の指導の重点                                                                                                                    |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | ○漢字の読み書きに関する問題では、8問中5問は市の正答率を上回った。また、文法・語句に関する事項でも、「対義語」の問題は1.2ポイント市の正答率を上回った。<br>●文法・語句に関する事項において、「用言の活用」の問題は5.5ポイント、「敬語」の問題は1.9ポイント市の正答率を下回った。                              | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・漢字はよく理解できていたが、今後は慣用句、文法など言葉の正確な習得を図るため、定期テスト以外でも既習の言語事項を復習する内容の問題を出題し、何度も繰り返し学習することを促す。        |
| 情報の扱い方に関する事項    | ○説明的文章における「情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方をとらえる」問題では、市の正答率は下回ったものの、8.7ポイント全国の正答率を上回った。<br>●パッケージデザインの応募用紙を書く問題の「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるよう工夫している」問いは2.5ポイント市の正答率を下回った。 | ・会話文やデザインなどから情報を読み取り、更にそれについて考えたことを文章化する、という作業には慣れも必要である。そのため、着目するポイントを解説したり類似問題を解かせたりすることで、様々な問題に対応できるようにする。               |
| 我が国の言語文化に関する事項  | ○文法・語句に関する事項の「歴史的仮名遣いについて理解している」の問題では、市の正答率は下回ったものの、23.1ポイント全国の正答率を上回った。<br>●文法・語句に関する事項の「現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる」の問題では、1ポイント市の正答率を下回った。                                           | ・古文に対する苦手意識が強い生徒が多いため、問題に触れる機会を授業以外で作るようにする。また、仮名遣いだけでなく古語の意味への理解も深まるように指導する。                                               |
| 話すこと・聞くこと       | ○話し合いの内容を聞き取る問題では、すべて市の正答率を下回ったものの、4問中3問は全国の正答率を上回った。<br>●どの問題も市の正答率を下回ったが、特に「進行の仕方を工夫して話し合っている」の問題では6ポイント市の正答率を下回った。                                                         | ・話し合い活動の中で、考えに至った根拠を明確にして話すことを徹底し、相手が納得する、説得力のある話し方を養う指導をする。また、コロナ対策を十分にした上で、スピーチや小グループの話し合いなどを行う。                          |
| 書くこと            | ○「外国の文化を理解するためにいちばんよい方法は何か」というテーマに関する記述問題では、5つすべての条件において市の正答率を上回った。特に、「自分の考えを明確にして書く」という条件においては4.2ポイント市の正答率を上回っている。<br>●パッケージデザインの応募用紙を書く問題では、3問中2問市の正答率を下回った。                | ・夏以降は、週に一回程度課題作文対策を授業で行ってきた。その成果が出たと言えるが、パッケージデザインについてなど、少し変わった形での問いについては対応しきれなかった。今後は、様々な記述のテーマを準備して指導の充実を図っていく。           |
| 読むこと            | ○文学的文章における「文章を批判的に読みながら、登場人物の行動の意味について考える」問題では、1ポイント市の正答率を上回った。<br>●説明的・文学的文章の内容を読み取る問題では、8問中7問で市の正答率をわずかに下回った。特に、「情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方をとらえる」問題では、2.6ポイント市の正答率を下回った。     | ・説明文や論説文の読み方、小説や随筆、そして詩や短歌、俳句などの散文についての読み方や読解の違いについて理解する力を育てるため、授業で基本的な知識を指導する。またテストで的確に解答する力を育てるため、ポイントを解説したり類似問題を解かせたりする。 |

宇都宮市立清原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 地理的分野    | 67.2 | 69.2 | 61.5 |
|     | 歴史的分野    | 62.9 | 65.1 | 59.1 |
|     | 公民的分野    | 76.1 | 77.6 | 71.6 |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 70.5 | 72.2 | 66.8 |
|     | 思考・判断・表現 | 60.0 | 62.3 | 53.2 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

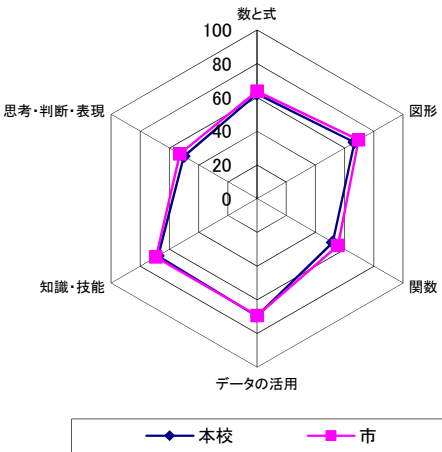
| 領域    | 本年度の状況                                                                                                                                                          | 今後の指導の重点                                                                                                                                            |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地理的分野 | ○日本の地形の特色「扇状地」「フォッサマグナ」等についての理解を問う問題の正答率が、全国・市平均を共に上回っている。<br>●複数の資料を活用し、日本の諸地域の特色(自然・人口・産業等)についての理解を問う問題の正答率が、全国平均は上回っているが、市の平均を4～6ポイント程度下回っており、資料活用力に課題が見られる。 | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・資料活用力に課題が見られるので、地図(主題図)の見方や資料の活用等の基礎的な力を伸ばす丁寧な指導が必要と考える。また、地図や雨温図、統計資料等を多面的・多角的に考察し、その内容を表現する機会を意図的に設ける。               |
| 歴史的分野 | ○古代日本の歴史上の人物についての知識を問う問題の正答率が、全国・市平均を共に上回っている。<br>●江戸幕府の行った政策について、複数の資料を関連付けて考察する、そしてその内容を文章で解答するといった思考・判断・表現力を問う問題の正答率が、市の平均を5ポイント程下回っており課題が見られる。              | ・毎時間に加えて、時代ごとのまとめ・振り返りを行うことで歴史を大観する指導を継続しつつ、重要な歴史的事象についての知識を確実に定着させられるよう、頻繁に小テストを実施する等、生徒の理解度を把握した上で指導を進める。その際、複数の資料から考察した内容を文章で表現する問題も提示し、併せて指導する。 |
| 公民的分野 | ○日本の人口問題(少子高齢化)への対策について、文章で答える問題の正答率が全国平均・市の平均共に上回っている。<br>●人権(フランス人権宣言・公共の福祉・新しい人権等)について知識を問う問題の正答率が、全国平均は上回っているが、市の平均を2～3ポイント下回っており課題が見られる。                   | ・公民的分野の学習意欲は全クラス共に高く、授業中も熱心に教師の説明を聞き、集中して課題に取り組む姿がよく見られる。今後も生徒に身近な事例を取り上げ興味関心を高めると共に、高校入試の過去問を解かせる等、知識の定着を図る指導を行う。                                  |
|       |                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                     |
|       |                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                     |
|       |                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                     |

宇都宮市立清原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 数と式      | 62.2 | 63.7 | 61.5 |
|     | 図形       | 66.7 | 69.6 | 61.1 |
|     | 関数       | 52.0 | 55.4 | 43.5 |
|     | データの活用   | 69.7 | 69.3 | 64.2 |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 67.8 | 69.2 | 65.3 |
|     | 思考・判断・表現 | 50.1 | 52.9 | 42.1 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

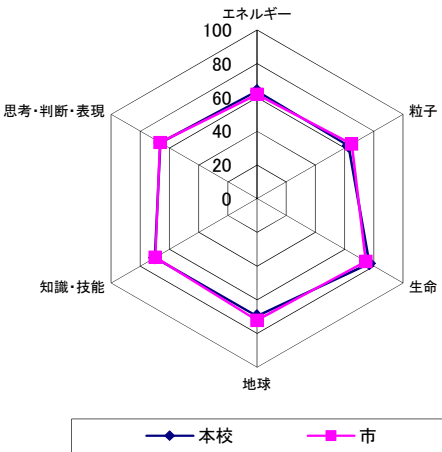
| 領域     | 本年度の状況                                                                                                                                                        | 今後の指導の重点                                                                                                      |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と式    | ○単項式の除法や、乗法の公式を使って式を簡単に<br>する問題、平方根を利用して正方形の1辺の長さを求<br>める問題の校内正答率は市の正答率を上回ってい<br>る。<br>●累乗を含む正負の数の計算、1次式の減法、連立<br>方程式を解く問題、二次方程式を解く問題の校内正答<br>率は市の正答率を下回っている。 | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・累乗や減法を含む計算、また方程式を解く問題が課題である。<br>計算の基本的なルールおよび、方程式の解法について再<br>確認し、多くの問題を解く機会をつくる。 |
| 図形     | ○多角形の外角の和について問う問題の校内正答率は市の正答率を上回っている。<br>●三角形の合同条件についての問題や、折り目の線<br>の作図についての問題の校内正答率は市の正答率を<br>下回っている。                                                        | ・図形の基礎的な性質は理解しているが、証明や作図に課題<br>が残る。重点的に証明や作図の課題に取り組めるよう演習の<br>時間をつくる。                                         |
| 関数     | ○2元1次方程式の解の性質について問う問題の校<br>内正答率は市の正答率を上回っている。<br>●関数 $y=ax^2$ における変化の割合を求める問題や、<br>比例の表を読み取り、式に表す問題の校内正答率は<br>市の正答率を下回っている。                                   | ・関数に対して苦手意識がある。”変化の割合”などの用語を<br>正しく理解できるよう再確認する機会をつくる。また、表と式と<br>グラフの関係が結びつくよう工夫して指導の充実を図る。                   |
| データの活用 | ○箱ひげ図を読み取る問題の校内正答率は市の正答<br>率を上回っている。また、ヒストグラムから値を読み取<br>る問題の校内正答率も市の正答率を上回っている。<br>●2つのヒストグラムを読みとり、その特徴をもとに説<br>明する問題の校内正答率は市の正答率を下回ってい<br>る。                 | ・ヒストグラムの基本的な読み取りはできているが、その特徴<br>を説明する力が十分でない。問題演習などを行う際、理由や<br>説明を記述したり、発表したりする場面を増やしていく。                     |
|        |                                                                                                                                                               |                                                                                                               |
|        |                                                                                                                                                               |                                                                                                               |

宇都宮市立清原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | エネルギー    | 63.8 | 61.8 | 60.6 |
|     | 粒子       | 62.6 | 64.8 | 54.0 |
|     | 生命       | 76.9 | 74.5 | 66.6 |
|     | 地球       | 69.7 | 72.1 | 63.0 |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 70.0 | 69.6 | 63.4 |
|     | 思考・判断・表現 | 66.2 | 66.5 | 57.5 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

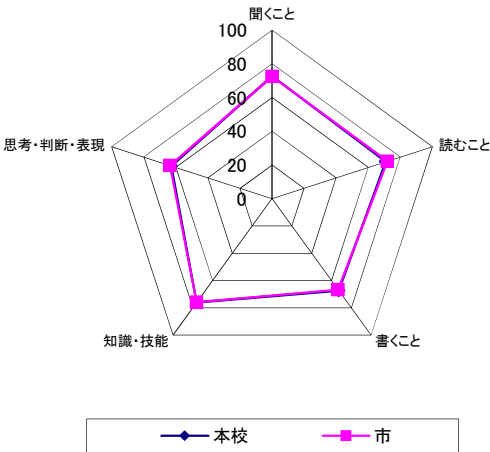
| 領域    | 本年度の状況                                                                                                                | 今後の指導の重点                                                                                                                              |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| エネルギー | ○エネルギーの問題は、比較的どの単元も市の平均を上回っている。<br>●「電流が流れているコイルが磁界から受ける力の大きさを、大きくする方法を説明できる。」など実験方法を改善させることを文章で説明する問題は、市の平均を下回っている。  | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・実験操作をしっかりと把握しているので、さらに反復して学習させ、知識の定着を図りたい。<br>・科学現象から説明し、判断することが苦手な生徒が多い。考察力を育てるため、レポートに自分の考えを書かせるようにする。 |
| 粒子    | ○酸化銀を加熱すると酸素ができることや分解されてできた物質の性質と判別方法、化学反応式の問題の正答率は市の平均より上回っている。<br>●イオンや電離などの結びつき、数を考えるなど思考的な問題の正答率は、市の平均を大きく下回っている。 | ・実験操作をしっかりと把握しているので、さらに力を入れて学習していきたい。<br>・科学現象を説明することや、判断することが苦手な生徒が多い。思考的な力を伸ばすために、丁寧に自分の考えを書かせるようにする。                               |
| 生命    | ○植物など、実際に実験・観察をして触ったり見たりしたことのある問題は、全体的に校内正答率が市の平均を上回っている。<br>●人間の体の中や生殖などに関して説明を求める問題の正答率は市の平均を大きく下回っている。             | ・体験学習をしたことがない単元では、説明することが苦手な生徒が多いので、映像などを多く用いて理解を深めさせ、説明させる機会を設けたい。                                                                   |
| 地球    | ○図と表を読みとり、風向について考えること、前線のようにすを説明することなど、身の周りで体験したことのある問題は、校内正答率が市の平均を上回っている。<br>●地震の問題など、計算やグラフが出てくる問題は、全体的に下回っている。    | ・体験学習をしたことがない単元では、説明することが苦手な生徒が多いので、映像などを多く用いて理解を深めさせ、説明させる機会を設けたい。                                                                   |
|       |                                                                                                                       |                                                                                                                                       |
|       |                                                                                                                       |                                                                                                                                       |

宇都宮市立清原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 聞くこと     | 72.7 | 72.5 | 70.5 |
|     | 読むこと     | 71.0 | 71.9 | 66.9 |
|     | 書くこと     | 67.3 | 66.8 | 59.7 |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 76.1 | 76.0 | 73.9 |
|     | 思考・判断・表現 | 62.9 | 63.6 | 55.3 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

| 領域   | 本年度の状況                                                                                                                                                         | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 聞くこと | ○市の平均を0.2ポイント上回った。<br>○英文を聞き、その内容の絵を選ぶ(英語学習に関するグラフ)という項目では、市の平均より5.3ポイント上回っている。<br>●対話の内容を聞き、その意味を理解して資料をもとに英語で答える項目では、市の平均を4.2ポイント下回り、対話文の応答を苦手としている生徒が多い。    | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・授業中の教師の指示や簡単な説明をできるだけ英語を使って行うなど、授業内で教師が英語を話す場面を増やす。また、ALTの活用の仕方を工夫して、生徒がネイティブの英語を聞く機会を増やし、英語に慣れさせる。<br>・ALTと教師が対話をしている場面を聞かせるなど、相手からの質問に、その場に応じた返答例をより多く示し、様々な場面での反応の仕方を身に付けさせる。 |
| 読むこと | ○短い対話文の情報を正しく読み取り、その内容を理解する項目では、市の平均を3.2ポイント上回っている。<br>●市の平均を0.9ポイント下回った。<br>●長文の読みとり(メール文)では、すべての項目で市の平均を下回った。特に内容把握の項目では、市の平均を5.2ポイント下回っており、読み取りに難がある。       | ・文法的事項の理解を深めさせることに加えて、様々な場面で使い分けをできるように練習させる。<br>・短文から長文まで、できるだけ多くのテーマの英文に接する機会を増やす。<br>・会話文では、登場人物の整理や、状況や場面を意識して読む習慣を付けさせる。<br>・時間を意識して適度な速さで読めるようにさせる。<br>・重文や複文に対しての使い方の反復練習を増やす。                         |
| 書くこと | ○市の平均を0.5ポイント上回った。<br>○基本的な文の語順を理解して正確に書く問題(have to～の否定文、SVOCの語順)では市の平均を上回り、基本文の定着が見られた。<br>●対話の流れに合った英作文を書く問題(whenを使ってときをたずねる、whyを使って理由をたずねる)では市の平均をわずかに下回った。 | ・基本文の反復練習を何度も行い、慣れさせる。<br>・自己表現活動を多く取り入れ、自分の考えや気持ちを英語で正しく書く練習を行う。<br>・授業プリントや一人一台のタブレット端末などを使って、家庭学習の習慣を定着させる。<br>・自分の考えや意見を作文するような場面を設定し、3文～5文でまとまりのある作文となるように、文の構造についてさらに学習を深める。                            |
|      |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                               |
|      |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                               |
|      |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                               |

## 宇都宮市立清原中学校

### 学力向上に向けた学校全体での取組

#### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                      | 取組の具体的な内容                                                                         | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                          |
|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 家庭学習を充実させる。                 | ○自主学習ノートを全学年共通で行い、毎朝提出状況をチェックすることで家庭学習の習慣化を図る。<br>○[きよはら学習ガイド]を配付し、家庭学習の進め方を指導する。 | ・「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」の項目では、3学年とも肯定割合が市の平均を上回っている。                                                                                              |
| ICTを活用し、個に応じた分かりやすい授業を展開する。 | ○ICTを活用した授業の公開を教師全員が実施する。<br>○全ての教科で1人1台端末を授業で活用する。                               | ・「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」の項目では、3学年とも肯定割合が市の平均を上回っている。<br>・「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる。」の項目では、肯定割合が1学年は市の平均と同じであり、2・3学年は市の平均を上回っている。 |

#### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・家庭学習の充実を目指した「自主学習ノート」の取組は効果をあげており、ほとんどの生徒が家庭学習の習慣を身に付けている。また、「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の数値も市の平均を上回っている。次年度はA I ドリルを活用した家庭学習にも取り組むことで、家庭学習のさらなる充実を図りたい。

・I C Tを活用した授業を全教科で意図的に行った結果、デジタル教材を活用した分かりやすい授業が行えた。また、生徒も1人1台端末を話し合いや発表等で多く扱ったので、I C T活用能力が身に付いてきている。次年度も継続して取り組みたい。